

## 3日 木曜

### ホセア



2:14 それゆえ、見よ、わたしは彼女を誘い、荒野に連れて行って優しく彼女に語ろう。

2:15 わたしはそこを彼女のためにぶどう畑にし、アコルの谷を望みの門とする。その場所で彼女は答える。若いころのように、エジプトの地から上って来たときのように。

2:16 その日になると——【主】のことば——あなたはわたしを『私の夫』と呼び、もう『私のバアル』とは呼ばない。

2:17 わたしがもろもろのバアルの名を彼女の口から取り除く。その名はもう覚えられないことはない。

2:18 その日、わたしは彼らのために、野の獣、空の鳥、地面を這うものと契約を結ぶ。わたしは弓と剣と戦いを地から絶やし、彼らを安らかに休ませる。

2:19 わたしは永遠に、あなたと契りを結ぶ。義とさばきと、恵みとあわれみをもって、あなたと契りを結ぶ。

2:20 真実をもって、あなたと契りを結ぶ。このとき、あなたは【主】を知る。

2:21 その日、わたしは応えて言う。——

【主】のことば——わたしは天に応え、天は地に応え、

2:22 地は、穀物と新しいぶどう酒と油に応え、それらはイズレエルに応える。

2:23 わたしは、わたしのために地に彼女を蒔き、あわれまれない者をあわれむ。わたしは、わたしの民ではない者に『あなたはわたしの民』と言ひ、彼は『あなたは私の神』と応える。」

ホセアの許を去って、他の男、それも複数の相手と暮らした姦淫の女ゴメルは、まさに唯一の

神である主ではなく、別のものを頼り従ってしまったイスラエルを表すものです。そしてそれは救われていながら、神以外のものを慕って離れてしまったクリスチャンの姿でもあります。

「それゆえ…」とありますから、神様はそのような者に対して何をなさるかと言えば、「かの世をくどいて」とあります。主はあくまでも特別な愛の関係を続けてくださるのです。驚くべき不変の愛です。

なぜ「荒野に連れて行って」なのかといえば、そこはかつてイスラエルが主の訓練を受けたところであり、それゆえに主のみわざを経験した所です。す。信仰者にとっては荒野のような時期は、後には主との暖かい絆が結ばれるときでもあるのです。

そして16節からは、主との関係が回復する希望が宣言されています。もしもどこか主との関係が冷えてしまっているものを感じたなら、主がこのような不変の愛で待っておられることを信じましょう。そして絆がさらに深まることを信じて、祈りつつ主のみこころに帰りましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

